

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス 講座仙台学2020

—仙台の過去・現在・未来— 開講科目概要

開講日時 (全て土曜日)		講座名 ◎講師名	概要	費用	定員	実施大学
1月18日	10:30 ～ 12:00	伊達藩の医学 と養生 — その 評価と後世 への影響 ◎浦山 きか	伊達藩は、支藩の一閥藩とともに、江戸から明治にかけて日本医学史上に大きな役割を果たした。1815年に藩校から医学館が独立し、1822年に蘭方科が設置された。佐々木中沢の著した『存真図腋』や、大槻玄沢も翻訳に参加した『厚生新編』が、当時の水準の高さを今に伝える。伝統的な医学と革新との両者を合わせ持った伊達藩の医学と、その歴史的な意義、さらには後世に与えた影響について紹介する。	無料	50名 (先着)	仙台赤門 短期大学
1月18日	13:00 ～ 14:30	マルチ人間 大槻文彦の諸 相 —教育者・大 槻文彦 ◎後藤 斉 (ごとう ひ とし)	大槻文彦は明治期に日本最初の近代的国語辞典『言海』を編纂した国語学者として知られています。しかし、大槻の知的関心は、国語辞典と日本語文法の編纂を中心としながらも、多方面にわたって絡みあっていたのです。大槻は校長として2度仙台に赴任したほか、教育の分野で様々な貢献をしました。中学校での教え子、吉野作造からは終生にわたり敬愛を受けました。この講義では二つの観点から大槻のマルチな活動に迫ってみようと思います。	無料	80名 (先着)	東北大学
1月18日	15:00 ～ 16:30	人口で見る仙 台の過去・現 在・未来 ◎萩原 潤 (はぎわら じゅん)	ある地域の将来像を描くとき、その地域に何人の人がいるのかを予測することは、必要な設備などを考えるうえで重要です。そのためにはこれまでに人がどのように増えてきたのかを知ることが重要です。人類が誕生してから今までに、人はどのように増えてきたのでしょうか。その道のりは決して増加ばかりではありませんでした。本講義ではこれまでの人の歩みを、全世界、日本、東北、仙台と様々なレベルで考えてみたいと思います。	無料	50名 (先着)	宮城大学
1月25日	10:30 ～ 12:00	梅田川下流の 読み解きから 探る、仙台の 古層風景 ◎八十川 淳 (やしわか じゅん)	梅田川下流の苦竹や小鶴近辺には謎がいっぱい。仙台市街ができる江戸期以前、梅田川下流には現在の様子から想像できない景色が展開していたと思われます。明治-大正期の古地図に記されている梅田川下流の図示表現や、地名、字名を丹念に吟味し、読み解いていくと、「仙台の古層風景」が垣間見えます。地名、字名は先人たちの生活誌であり自然観察の記録です。さあ、皆さんと一緒に「仙台の古層風景」を探りましょう！	無料	80名 (先着)	東北文化 学園大学

開講日時 (全て土曜日)		講座名 ◎講師名	概要	費用	定員	実施大学
1月25日	13:00 ～ 14:30	今日の郊外問題 - 仙台都市圏での居住地変化の歴史③ ◎千葉 昭彦 (ちば あきひこ)	これまで①・②回で、仙台都市圏の宅地開発が北部を中心に展開してきた要因や郊外住宅地での諸施設(商業施設や公園・歩道などの諸施設)整備状況の相違の理由などについて述べてきた。今回は少子高齢化の中で各郊外住宅地で見られる諸問題(買い物難民・交通弱者・空き家問題など)の実態に関してみていく。現在進行形の問題であり、解決の方向性を一緒に考えてみたい。	無料	80名 (先着)	東北学院大学
2月1日	10:30 ～ 12:00	仙台とロッテオリオンズもうひとつの仙台のプロ野球の歴史 ◎氏家 靖浩 (うじいえ やすひろ)	いまや仙台を本拠地としたプロ野球チームといえば、誰もが東北楽天ゴールデンイーグルスと答えるでしょう。ところが今から40年前の5年間、ロッテオリオンズ(現在の千葉ロッテマリーンズ)が仙台を本拠地にしていたことがあるのです。なぜプロ野球チームが仙台を本拠地としたのか、そして、なぜ仙台から離れていったのかについて、今の満員のスタンドからは想像もできない、在りし日の仙台の姿にも触れながらお話ししたいと思います。キーワードは特急ひばりと仙台市電です(?)。	無料	80名 (先着)	仙台白百合女子大学
2月1日	15:00 ～ 16:30	仙台市の学校給食 昭和の献立 移り変わり ◎氏家 幸子 (うじいえ さちこ)	薪を使って学校給食を作っていた時代があったなんて、なかなか想像できませんよね。仙台市立のある学校に昭和33年度からの給食日誌が残っていました。そこには「薪16把」といった記録が何ヶ所かに…。パンと脱脂粉乳中心の給食!どんなおかずを食べていたのでしょうか?鯨はどんな料理になっていたのかしら?肉よりも安かったのかしら?その後の献立はどんなふうに変わっていったのかしら?と、興味は尽きません。昭和の時代の給食の移り変わりを1学校の給食日誌から紐解いてみましょう。	無料	80名 (先着)	仙台白百合女子大学
2月8日	10:30 ～ 12:00	次世代放射光と仙台の未来 ◎村松 淳司 (むらまつ あつし)	国、宮城県、仙台市などが共同で、東北大学青葉山新キャンパスに「次世代放射光施設(軟X線向け高輝度3GeV級放射光源)」の建設を始めています。4年後以降、本格的な運用・利用が開始されます。私たち仙台の街はどのように変わるのか、また、私たちの暮らしに、どんな変化があるのか、など、次世代放射光による未来の仙台への効果と期待に焦点を当てて、話をします。	無料	69名 (先着)	東北大学

開講日時 (全て土曜日)		講座名 ◎講師名	概要	費用	定員	実施大学
2月8日	13:00 ～ 14:30	マルチ人間 大槻文彦の諸 相 —大槻文彦と 吉野作造 ◎後藤 斉 (ごとうひと し)	大槻文彦は明治期に日本最初の近代的国語辞典『言海』を編纂した国語学者として知られています。しかし、大槻の知的関心は、国語辞典と日本語文法の編纂を中心としながらも、多方面にわたって絡みあっていたのです。大槻は校長として2度仙台に赴任したほか、教育の分野で様々な貢献をしました。中学校での教え子、吉野作造からは終生にわたり敬愛を受けました。この講義では二つの観点から大槻のマルチな活動に迫ってみようと思います。	無料	69名 (先着)	東北大学
2月8日	15:00 ～ 16:30	<地域と教育 >関係の戦後 史 ◎三谷 高史 (みたに た かし)	現在、仙台市で導入が検討されているコミュニティ・スクール制度(学校運営協議会制度)をご存知でしょうか?学校と地域社会の連携をこれまで以上に促進させようとするこの制度について、<地域と教育>論という戦後日本の教育学説の蓄積を振り返りながら、参加者のみなさんと一緒に考えてみたいと思います。	無料	69名 (先着)	仙台大学

※1月18日・2月1日：会場は仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール

※1月25日：会場は東北工業大学一番町ロビー2階ホール

※2月8日：会場は東北大学片平北門会館 社会連携スペース エスパス